

2018年 冬号

# 僧伽

## 第100号

僧伽編集委員会

〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

道俗時衆、共に同心にただ  
この高僧の説を信ずべし。

『正信偈』

『正信偈』

親鸞聖人の主著である『教  
行信証』の中に納められて  
いる偈文。



左の写真は中米にあるグアテマラと  
いう国のカトリック教会の様子です。イ  
ンディオと呼ばれるマヤ系の先住民の  
人たちが、教会の地面に蝋燭を灯し、花  
を手向けています。  
かつてはこの地域の人たちは独自の  
宗教を持っていました。しかし、スベ

## 受け継がれる形

徳法寺杉谷 浄

インの植民地となった際に、カト  
リックに強制的に改宗させられて  
しまいます。その時、彼らの神殿  
は破壊され、その上にこの教会が  
たてられました。ですからそれ以  
降、何百年の間、この地域の人  
たちは正面に安置されている聖母  
マリア像ではなく、地面に向  
かって祈りをささげ続けています。  
この様に受け継がれている形の中  
から、彼らも、そして私たちもこ

の地に刻み付けられている歴史を  
知ることが出来るのです。

このように、日ごろ私たちが何  
気なくかわしている挨拶や季節  
ごとの行事も、調べてみるとそこ  
に先人たちの様々な思いが込め  
られていることに気づかされま  
す。年ごとに少なくなっている  
言われている年賀状も、以前は年  
始回りという習慣でした。これが  
今ではメールでの挨拶に変わっ  
てきていますが、年の初めに普段  
お世話になっっている方々だけ  
はなく、つい疎遠になっっている方々  
とも心をつなぐことのできる  
という、大切な習慣として残って  
くれればと思います。

念仏を称えることや寺や仏壇に  
参ることも、一見意味が無いよう  
に思えるかもしれませんが、しかし、  
そこに込められた先人たちの思い  
を感じる事が出来れば、今の形  
が受け継がれてきた理由を深くこ  
とが出来ると思えます。この『僧  
伽』がそのことに少しでもお役に立  
てればと思います。

# 杉谷 紬



## 奥能登国際芸術祭2017

二〇一七年九月三日から十月二十二日まで珠洲市で行われていた奥能登国際芸術祭2017に行ってきました。この芸術祭では、作品がそれぞれ広く分散しており、すべての作品をめぐると珠洲市を一周することになります。そのうえ、作品がある場所は美術館などの施設ではなく、多くが使われなくなった学校や店、駅などの建物であり、また外浦ではしばしば海岸に置かれていないため、地図に載っていない場所を求め、さ迷う羽目になります。

二〇一七年九月三日からはこれで二回目です。以前の訪問は幼いころであったのでほとんど何も覚えていません。交通の便が悪く、金沢市とは違う文化を持つ珠洲市は同じ県でありながら物理的にも心理的にも遠い場所でした。しかし、この芸術祭を通して私にとつて珠洲市は忘れることのできない大切な場所となりました。

それはこの芸術祭が地域と非常に密着したものであったからです。古い建物とそこにあったもの、また、昔の鉄道や船・漁具などを活用した作品では、その場

所にもまつわる地域の歴史や人々の記憶を色濃く反映していました。海岸の作品は、珠洲市の瑠璃色の海に砂浜や岩場、そして漂流物とそれにまつわるイメージなどもひっそりめぐって作品となつていきます。設置されている現代アートの作品には一見斬新で奇抜に思われるものもあるかもしれませんが、珠洲市で調査を重ね、時には地元の人々と共に作られた作品は、見ているうちに珠洲市の人々の心の奥底に触れるような深い印象を残しました。

また作品以外にも、開催期間をキリコ祭りなどの地元祭りが随所で盛んな時期に重ねたことや、飲食店でまつり御前を提供するなど地域の特色を楽しめるような企画がされています。それ以外でもこの芸術祭で作品を探し回るうちにこの地の自然や食、祭りなどの文化に触れ、地元の人々と出会うことができました。私がこの芸術祭で感じた

のは珠洲市の自然や文化のすばらしさだけではありません。珠洲市の風景と展示されている作品をともに見てゆくと昔の賑わいが失われ寂れる街、廃線になった鉄道、かつて持ち上がった原子力発電所設置の計画など、様々な問題が顔をのぞかせます。こうしたことが作品に反映されていることは非常に重要な意義があると思います。

今回の芸術祭がうまくいけば三年後に二回目の芸術祭が開催されることになり、是非三年後も訪れて、珠洲市や作品がどう変わったのか見てみたいと思います。



プロフィール(略歴)  
杉谷 紬

徳法寺住職 杉谷浄の三女。  
現在北海道大学在学中。



本紹介(一)

『日本史の内幕』

磯田道史 著  
中公新書

者がいた。長剣を帯びていた  
ら乱暴者に因縁をつけられ、  
「おれの股を潜れ」と言われ  
た。韓信は喧嘩を避けるた  
め、屈辱に耐えてその男の股  
を潜った。

この辛抱強い若者は、その  
後軍事的天才と称される大  
將軍、齊王に出世したという。  
この故事は、「大望ある者  
は目先のつまらないことで争  
わない」という意味で、しば  
しば絵に描かれてきた。図は  
その一枚である。

先の政治家は、元の意味  
を分かつたうえで、さらにひ  
ねつて使っていたのだからな  
かなかのものである。

さて、歴史研究家、磯田道  
史は、これとは別の「韓信股  
潜図」を京都の古本屋で見つ  
けたという。(それは丸山応

その故事とは次のような  
ものである。

古代中国に韓信という若



拳の弟子、渡辺南岳の手によ  
るものだった。

その絵の上には、別の手で  
一文が書き添えられていた。  
古文書解読のスペシャリスト  
である磯田は、さっそくそれ  
を解読してみた。

「唐は唐。日本は日本。唐  
の紙屑ばかり拾ひて日本の  
刀を忘るることなかれ」「道  
なかに立つ市人きりすてて  
股はくぐらぬ大和魂 杏花  
園」と読めた。

この瞬間、磯田の全身に鳥  
肌が立ったという。杏花園と  
は、大田南畝<sup>おおたなんく</sup>、蜀山人<sup>しやくじん</sup>の別  
名だったのだ。

何とこの掛け軸は、江戸  
時代の対中国感情を表す重  
要な歴史的資料だったとい  
うのだ。つまり南畝は、中国  
の書物を紙屑と呼び、日本  
の刀を忘れるなど書いてい  
るのである。そして、無礼者  
は切り捨て、股を潜らないの  
が「大和魂」であるというの  
だ。

江戸期に日本のインテリ  
は脱中国を始めた。その代  
表が本居宣長であるが、彼の

国学の思想が後に日本の  
ファシズムに繋がっていたこ  
とはよく知られている。  
ここからの磯田の考察が  
素晴らしい。

かつて日本は刀で斬り捨  
てる武士の論理で一時は成  
功した。しかし結局欧米に  
打ち負かされた。大和魂を  
叫び中国を馬鹿にして韓信  
の自制を失った日本ははつき  
り失敗した。

磯田は言う。混迷する国  
際社会の中で、今各国に求  
められるのは、韓信の股潜り  
の自制である。

(彰)

平成三十年  
年忌法要のご案内

- 一周忌 平成二十九年死亡
- 三回忌 平成二十八年死亡
- 七回忌 平成二十四年死亡
- 十三回忌 平成十八年死亡
- 十七回忌 平成十四年死亡
- 二十五回忌 平成六年死亡
- 三十三回忌 昭和六十一年死亡
- 五十回忌 昭和四十四年死亡

# 和讃に学ぶ

## 第五十四回

徳法寺 杉谷 浄

### 時機相應の法

像法のときの智人も  
自力の諸教をさしおきて  
時機相應の法なれば  
念仏門にぞいりたまう

この和讃は、寺での報恩講でよく詠まれていますが、お聞きになった方もいらつしやると思っています。

「像法」については左ページの「真宗豆知識」にあるとおりです。

「智人」とは「智慧ある人」という意味で、ここでは大乘仏教の祖とされる竜樹菩薩と『浄土論』を著した天親菩薩を指します。大乘仏教を代表するようなこの二人でさえも、自らの力で悟りを得るといふ教えではなく、他力によつて悟りを得ようという念仏の教えに

帰依されたという和讃です。

この和讃の中で、親鸞聖人は念仏の教えは「時機相應の法」であるとおつしやっています。これは、今の時代とこの私に合っている教えであるという意味です。

「時」は末法という時代です。親鸞聖人がいらした鎌倉時代に書かれた『沙石集』には当時の僧侶の姿を嘆いた「末代は、身は出家に似て、剃髪し墨染めの衣を着、煩惱を離れた清浄な教えを学びながら、かえつてこれを名利栄花を得る手段とし、出世を第一とし、富貴を得ることを志し、進んで国師となり、望んで高官を貪る。実に末代の道義の衰えは悲しいことである。」という一節があります。これは僧侶がだらしないうことではなく、末法であるという

証拠なのです。そして、末

法であることは今も続いています。時代と共に考え方も環境も変わりますから、末法であることの表れ方は変わつてきています。ただ

し、正しくあろうと思つても、個人の想いを超えて時代がそれを許さないということは変わらないのです。この様な時代に相應する教えが念仏であるということ

です。「機」は人の有り様です。法然上人はご自身を「愚痴の法然房」とおつしやっていますし、親鸞聖人は「愚禿釋親鸞」とおつしやります。「愚痴」とは「無知」とも言い、仏の智慧から最も遠い者のことです。念仏の教えは、この様な「機」の者に相應しているのです。最も仏から遠い者でさえ救うのですから、すべての者が救われる教えということになります。ですから、念仏の教えは、すべての時代のすべての人に対応していく教えであるということ

す。月忌参りで蓮如上人の「末代無知」という『御文』が読まれますが、これはこの「時機」のことです。

この様な教えがお釈迦様の頃からあつた訳ではありません。数え切れない人たちの手によつてつくられてきたのです。時代は常に変化しますから、教えも常に変化し続けます。そして今も多くの人々たちによつて、決して完成することのない教えが求められ続け形作られているのです。この努力が「時機相應の法」なのです。

三月から下記の仏教講座を徳法寺で行います。お釈迦様から今日まで、インドでどのように仏教が変化してきたのかを知っていたければ嬉しく思います。



### 徳法寺

#### 仏教入門講座①

#### インド仏教史

講師は徳法寺住職杉谷浄です。毎回終了後に質問の時間があります。資料は、主に中村元東京大学教授の著作を参考にしていますので、特定の宗派に偏ることはありません。ご自分の宗旨に関係なくご参加ください。年九回の講座で、十五回ほどの予定です。

三月から十一月までの年九回、毎月二十一日の午後七時半から九時ごろまでの講座です。毎回資料をお配りします。欠席された方にも、後日お渡しできます。第一回目は、序章「現在の仏教各宗派と基本用語の説明」です。参加費はお賽銭のみです。お気軽に参加してください。



本紹介(二)

『三木清遺稿』

「親鸞」

子安宣邦 編

白澤社

の学者人生のようであるが、彼の人生は次第に時代の波に飲み込まれていく。

親鸞の言う罪の自覚とは、自己を末法を生きる者として自覚することだった。三木はそのことを重要視し、人間の自覚が、歴史的自覚と不可分であることを繰り返して述べている。

昭和五年(一九三〇年)に日本共産党に資金を提供した嫌疑で検挙され、豊多摩刑務所に拘留された。この時は執行猶予付きの判決で、半年後に釈放される。

そこに、彼の不遇な生涯を重ね合わせてしまうのは早計だろうか。三木清という早熟な天才思想家の頭の中は、凡人には推し量れないものがある。しかし世が世であれば、彼は日本を代表する偉大な哲学者となつたことは間違いない。また彼がもう少し生きながらえることができたなら、戦後の日本の思想界を牽引する存在になつていただろう。

しかし、太平洋戦争末期の昭和二〇年(一九四五年)には、治安維持法違反の被疑者の友人を助け、再び投獄された。

彼もまた末法を駆け抜けた一人の念仏者であった。おそらく、近角常観を介して浩浩堂のグループとも交流があつたことだろう。彼の親鸞理解には近代教学の影響がはつきりと見てとれる。しかし同じことを述べていても、彼らとは一味違う奥深さを感じてしまうのは、私の偏見だろうか。

三木清は、一八九七年、現在の兵庫県たつの市に生まれた。浄土真宗との出会いは、第一高等学校の在学中であった。真宗大谷派僧侶の近角常観の歎異抄の講義を聴きに通っていたという。

その年の九月二六日に独房の寝台から転がり落ちて死亡しているのを発見された。享年四八歳だった。それは終戦から約一ヶ月後のことだった。

本書は、子安宣邦(日本思想家)が、疎開先に残された三木の遺稿を解読し、復刻したものである。波乱万丈の人生の終わりに、彼が再び向き合ったのは、若き日に親しんだ親鸞思想だった。

高校時代のこの経験が、三木に哲学を専攻させることになる。京都帝国大学に進学した彼は、西田幾多郎に学んだ。さらに、一九二二年から一九二五年までドイツに留学し、ハイデガーに師事した。

彼の研究対象は、実存主義哲学から、キリスト教、マルクス主義・・・と幅広い。特に帰国後のパスカル研究は有名である。

この遺稿を読むと、晩年彼が特に惹かれたのは、親鸞の末法思想(「真宗豆知識」参照)だったことが分かる。

ここまで見ると順風満帆

この遺稿を読むと、晩年彼が特に惹かれたのは、親鸞の末法思想(「真宗豆知識」参照)だったことが分かる。

この遺稿を読むと、晩年彼が特に惹かれたのは、親鸞の末法思想(「真宗豆知識」参照)だったことが分かる。

る。しかし同じことを述べていても、彼らとは一味違う奥深さを感じてしまうのは、私の偏見だろうか。

(彰)



真宗豆知識

正像末滅の法

お釈迦様が亡くなられてからの時代を、正法・像法・末法・滅法に分ける考え方です。

末法は遺徳がほとんど伝わらなくなつたため、教えは伝わっているのに、僧侶は戒律を修めることもできず、互いに争いばかりを起こしてしまう時代とされています。親鸞聖人や私たちの時代がこれです。

これには諸説ありますが、正法とはお釈迦様の遺徳が伝わっている時代で、自らの努力で悟りを得ることができました。この様な時代がお釈迦様が亡くなられてから五百年から千年間続いたとされています。

親鸞聖人は『正信偈』の中で道綽禪師が「像末法滅の者を同じく慈悲をもつて導いてくださつている」と讃えています。

像法は遺徳が衰え、教えは伝わっているものの、誰も悟りを得ることが出来なくなつた時代です。しかし、なんとか悟りを得るために、読経

親鸞聖人は『正信偈』の中で道綽禪師が「像末法滅の者を同じく慈悲をもつて導いてくださつている」と讃えています。

# 僧伽百号に寄せて

常德寺 西山 彰

僧伽は平成五年の春号から始まった。これは、私が三十二歳で住職に就任した時期に重なる。僧伽の歴史は、私の住職の歴史でもある。

この二十五年間、実に様々なことがあった。阪神淡路大震災、オウム真理教事件、同時多発テロ、東日本大震災など、書き出せばきりがない。私の周りに限ってみても、母親の他界、長男の誕生、父親の他界、寺の修復、等々、いろいろあった。

僧伽はその間、ただの一度も休むことなく、年四回のペースで発行され続けた。数々の出来事が、直接的に、または間接的に記事に反映することとなった。

平成は今まさに幕を閉じようとしている。結果的に本紙は、この時代に住職として生きた者の内面を綴る膨大な記録となった。発行

当初は思いもしなかったことである。

記念すべき百号は、くしくも正像末史観特集のような形になった。これは時代と人との不可分な関係を教えるものである。偶然にしても、できすぎた偶然である。

最後になったが、飽きっぽい私がこのような活動を続けられたのは、ひとえに杉谷浄氏の温厚な性格と粘り強い努力のたまものと言わねばならない。深く感謝している。



徳法寺 杉谷 浄

二十五年間よく続いたな、というのが正直な気持ちです。この間、発行当初から

この「僧伽」を応援してくれていた、父や母も見送ることになりました。父の眼から見れば、つたない私の文章が載っているこの「僧

伽」をカバンに入れて、一緒に配ってくれていた日のことを、今さらながらに思い出します。父や母だけではなく「僧伽」を応援して下さっていたたくさんの方、門徒の方々や先生方からも、既にお話を聞くことが出来なくなりました。二十五年というのはそういう時間なのです。

一方で、この「僧伽」を御縁として、たくさんの方々と知り合うことが出来ました。「自分色」のコーナーに文章を寄せて下さったたくさんの方々にも感謝しています。

もう二人の外孫の爺ですし、今は大学生の息子も来年には金沢に帰って来るとでしょうから、後しばらくという思いでもう少し続けていこうと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 各寺のご案内

◆常德寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

☎二四一―二六四九

◎春彼岸法要

三月二十一日(水・祝)

午後二時より

◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二―四

☎二四一―五二一九

<http://rokuhou-ji.com/>

フェイスブック

杉谷浄

ツイッター

[tokuhouji](https://twitter.com/tokuhouji)

◎徳法寺仏教入門講座

インド仏教史

三月十一月の二十一日

午後七時半から

◎春彼岸

春彼岸芝山佳範沈金

作品展

三月十七日(土)

二十五日(日)

◎春彼岸中日及び永代経法要

三月二十一日(水・祝)

午後二時より

講師 藤原千佳子師

杉谷浄のラジオ案内

一月二日(火)

二月六日(火)

三月六日(火)

F M N 1 (七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。

番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の午後十一時と土曜日の朝七時から二回です。インターネットでも聞けます。

編集委員

西山 彰(常德寺)

杉谷 浄(徳法寺)